

伊東に戻って想うことを

第7期 OG 白岩 沙也佳

こんにちは。2011年に卒業後、地元に戻り、所謂お役所仕事をしている白岩と申します。自宅から職場まで徒歩10分、ほぼ定時終わり、翌日を迎える前に布団に入るという優良健康生活を送っています。家から学校まで電車と徒歩で約1時間、グル学が閉まるまで活動、布団に入ることなく翌日を迎える、ということが多々あった小野ゼミ時代とは大違いです。

私が所属している教育委員会幼児教育課では、保育園・幼稚園の入所・入園や施設管理、予算作成・執行等を行っています。その中でも私は幼稚園担当をしており、今は新入園児の名簿作成や、園で使う用品、施設修繕、及び職員の出張等に係る支出管理に追われています。追われていると言っても、ゼミの日々を思い出すとちゃんちゃらおかしいですが。

しかし、このように思えるのは、ただの「ゼミ」ではなく、他でもない「小野ゼミ」だったからなのかもな、と思います。このエッセイを書くに当たって、卒業時に自分が書いたエッセイを読み返してみました(2010年の会誌参照)。要約すると、私は「これから辛いことがあっても、小野ゼミでの日々を思い出せば頑張れそう」ってことを書きました。「人生は要約できない」と某作家が言ったように、要約すると大事な部分が落とされて残念な印象が強くなりますね(もともと大したことないエッセイだということを差し置いても)。それはともかく、幸か不幸か、今私は素晴らしくストレスフリーな環境で働くことができます。その大きな理由として、仕事内容が自分に合っていることや、課内の先輩・上司に恵まれているということが挙げられます。でも、ほんの少し、僅かながら、私が「小野ゼミ」だったからじゃないかな、と思ったりします。「庁内の文章に決まりが多い」という同僚の愚痴も、私にとってはなんのことやら。一緒に作業するはずの先輩が途中で機能しなくなっても、共同論文執筆には敵わない。何をするにも、「小野ゼミ時代に比べれば」と無意識に比較する自分がいます。

というわけで、今のところ、小野ゼミはまだ私の原動力、とまではいかないまでも、近いものになっているようです。エッセイを書いて初めて気付きました。

最後に。皆さん、日々の勉強や仕事でお疲れになっていませんか？海が見える街で温泉に浸かってゆったり…海の幸を満喫できたら…。では、伊東に行きましょう！皆さま、是非伊東に遊びに来てください。色々頑張ります。ご気軽に連絡どうぞ！



伊東の街を一望できる大室山にて(著者は右側)